

各種放熱管別使用最高温度表

15Aサイズ

圧力範囲 MPa	放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
0~0.1, 0.2				
0~0.3, 0.4	25℃	40℃	60℃	60℃
0~0.5, 0.6	25℃	40℃	90℃	80℃
0~1, 1.5, 2	25℃	80℃	120℃	80℃
連成計 MPa	放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
-0.1~0.1, 0.2				
-0.1~0.3, 0.4	25℃	40℃	40℃	40℃
-0.1~0.5, 0.6	25℃	40℃	60℃	60℃
-0.1~1, 1.6, 2	40℃	80℃	80℃	60℃
真空計 MPa	放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
-0.1~0	25℃	40℃	40℃	40℃

1Sサイズ

放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
25℃	40℃	60℃	60℃
40℃	40℃	100℃	100℃
60℃	60℃	100℃	100℃
80℃	100℃	120℃	120℃
放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
25℃	40℃	40℃	40℃
40℃	60℃	60℃	60℃
40℃	60℃	80℃	60℃
60℃	80℃	100℃	80℃
放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
25℃	60℃	60℃	60℃

1.5Sサイズ

圧力範囲 MPa	放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
0~0.1, 0.2	60℃	60℃	80℃	60℃
0~0.3, 0.4	80℃	100℃	120℃	120℃
0~0.5, 0.6	80℃	100℃	120℃	120℃
0~1, 1.5, 2	80℃	120℃	140℃	140℃
連成計 MPa	放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
-0.1~0.1, 0.2	40℃	60℃	60℃	60℃
-0.1~0.3, 0.4	60℃	80℃	100℃	80℃
-0.1~0.5, 0.6	60℃	100℃	120℃	100℃
-0.1~1, 1.6, 2	80℃	100℃	120℃	120℃
真空計 MPa	放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
-0.1~0	60℃	80℃	100℃	100℃

2Sサイズ

放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
60℃	80℃	80℃	80℃
80℃	100℃	120℃	120℃
80℃	120℃	120℃	140℃
80℃	120℃	140℃	140℃
放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
60℃	80℃	80℃	80℃
60℃	80℃	100℃	80℃
80℃	100℃	120℃	100℃
80℃	100℃	120℃	120℃
放熱管無し	フィン型	パイプ型	スパイラル型
80℃	100℃	120℃	120℃

- (1) センサー周囲温度は20℃±10℃の場合です。 (2) 受圧部膜面に限り接触する温度です。 (3) 上記数値は連続使用時の温度特性です。
 (4) 使用最低温度はお問い合わせください。 (5) 受圧部膜厚により性能が変わりますので、上記数値は参考値とします。
 (6) 上記表以上の使用温度のご希望はご相談ください。 (7) 性能向上の為に数値が変わる場合があります。

●膜径比較

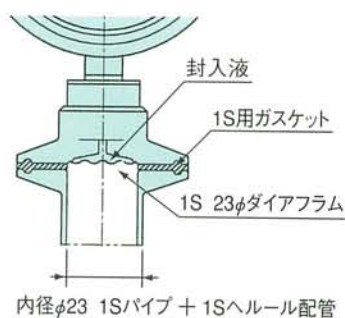
写真はヘルールタイプです。



●1Sヘルール配管に1.5Sヘルール用ダイヤフラム付圧力センサーを取付た場合の問題点

ダイヤフラムは1Sより1.5Sの方が面積が大きいので、対温度特性は大変有利ですが、1S配管に接続しますと液溜まりができる為、特に食品や医薬品関係等には不向きな場合があります。従って1S配管には必ず正規の1S用ダイヤフラムを使用した圧力センサーを御使用ください。

1Sヘルール付圧力センサー
正しい使用方法



1.5Sヘルール付圧力センサー
問題の有る配管方法

